

令和2年 新春懇談会

年 頭 に あ た り

令和2年1月8日

礼文町長 小野 徹

あらためて、明けましておめでとうございます。

輝かしい令和の御代、令和 2 年の新春を皆さんとともに迎えることができましたこと、心からお慶びを申し上げます。

また、本日は、新年早々の何かとお忙しい中、新春懇談会に礼文町議会議長柳谷正武様はじめ多くの皆様にご列席を賜り、衷心より厚くお礼を申し上げます。

皆様には、日ごろから町政の推進にあたり、格別なるご理解とご支援ご協力をいただいておりますことにあらためて心から厚くお礼を申し上げます。本年も年の始まりにあたり、新春懇談会の席上で、本町の表彰条例に基づく「功労者表彰式」を行わせていただきました。本日受賞された皆様は、多年にわたり教育委員や公明正大な選挙の執行、固定資産評価等々にご尽力をいただいていたところであり、また、永年にわたって各地区の自治会長や納税組合長を務められる等地方自治の進展に大きく貢献されました。また、消防団員並びに水難救難所員として多年にわたり地域を火災や災害から守り、海難事故を防ぐ等、安心安全な地域づくりに献身的な貢献をされた皆様であり、ともに、

ふるさと礼文町の発展を願って大きな夢の種をまかれ、郷土礼文町の発展のため献身的なご尽力を賜りました皆様でございます。「令和」最初の新春にあたり、本町の発展に多大なご功績を賜りました皆様にあらためて衷心より敬意と感謝を表する次第であります。どうぞ、これからも礼文町発展のため、変わらぬご支援を賜りますよう心からお願いを申し上げます。

さて、明るい希望をもって迎えた2020年、穏やかに明けた令和2年は、子(ね)年であります。子(ね)年を植物に例えますと新しい生命が、種子の中に萌(きざ)し始める時期を表わすとされ、新しい物事や運気のサイクルが始まる年と云われます。また、子(ね)年は子宝に恵まれることから繁栄の象徴とされ、したがって、今年は「繁栄の年」とも云える訳でございます。7月には「東京オリンピック」、8月には「パラリンピック」が開催されます。令和という響きとともに、新しい時代が素晴らしいものとなりますようお祈り申し上げます。

今年も、皆さまの思いを敏感にキャッチし、大胆に、また、繊細さも兼ね備えながら丁寧に町政を進めてまいりますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

今年の景気は、米中の貿易摩擦等海外の不確実な状況のもと、先は読みにくいものの、低く緩やかな成長が続いて安定感を感じると云われており、私は、いよいよ、好景気が実感できるという大きな期待と希望を持って新年を迎えたところでございます。

それは、我が国において、東京オリンピック、パラリンピックが開催される年であり、海外からの訪日客がさらに増えることや、道内においては、今年から空港民営化を担う北海道空港(HKK)連合が、道内の 13 空港を結ぶ新たな航空会社を設立して、5 年後を目途に、離島と札幌圏を結ぶなど、道内外の航空ネットワークを充実させる検討を始めたという報道がありました。 私は、礼文空港にもいよいよ明るい兆しが見えてきたと感じております。

また、浜に目をやると、今年も、タラ漁が豊漁とうかがっておりまして、活みなぎる浜の賑わいが、これからも続いていくことに大きな期待をしているとともに、たくさんの観光客でにぎわう夏の礼文島を夢見ているところでございます。

新年度の国の当初予算案では、「骨太の方針」にのっとり、人口減少、少子高齢化が進行する中、持続的かつ包摂的な経済成長の実現と財政健全化の達成の両立を最重要目標とし、新年度予算は、102兆6千580億円と2年連続で100兆円を超える極めて大きな予算案となっています。

わが町にとっても、新しい「まちづくり総合計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が新たに始まる年であり、礼文小学校校舎の大規模改修や公営住宅、教員住宅、安定型最終処分場建設や簡易水道の整備など、多くの事業が予定されております。また、最近は全国的にも、自然災害が相次いでおり、これまでは「50年に一度」と云われた災害が、毎年のように全国どこかで発生しております。

殊に、昨年は、度重なる発達した台風により、全国各地で多くの河川が氾濫し、また、暮れの12日未明には、豊富町を震源とする「震度5弱」の地震が道北を襲いました。幸いわが町では観測も被害もありませんでしたが、地震空白地帯と云われる今回の地震により、より一層警戒をしなければならぬ事態になったと思っていますので、今後も、避難所やシェルター式階段避難路の計画的な整備に努め、礼文町にとっても災害のない良い年にしたいと考えております。

私たちは計画や戦略をひとつひとつ着実に、また大胆に進めて、未来の礼文町にバトンを繋いでいかなければなりません。

本町発展の大きな柱は、礼文町の基幹産業である「漁業」と「観光」を振興させることであり、「商工業」とともに本町経済の基盤を安定させ、働く場を増やし、元気なまちにすることです。元旦の北海道新聞に日本経団連の中西会長さんもコメントされておりましたが、「地方創生が今年の重要な課題であり、農業漁業と観光が本丸になる」との認識を示されています。

さらに、「地方においてしっかりした確固たる産業基盤をつくらなければ人口減少のリスクはますます大きくなる」ともおっしゃられています。

そして、それは「地域で企業や働く人を応援して育てるといふこと、そして、人口減少で縮小した地域の経済、経済の循環を拡大させずして、人口減少を解決することはできない」と云う事だと私は思っています。

昨年の礼文島の水産水揚げは、32 億 5 千万円でありましたが、私たちはこの 32 億 5 千万円の水揚げを、40 億円にも、50 億円にも増やしていく努力をしなければいけない!! と思っています。 その一つが「販路拡大」であり、「加工による付加価値の増大」だと思います。

船泊漁協では、昨年 12 月に、東京新宿に本部のある「パールシステム連合会」と「持続可能な漁業確立」のために、礼文島の水産物を関東一円 150 万世帯の台所に提供する取り組みを始めたとうかがっています。この「パールシステム」は、漁業の再生を目指して「水産物を食べ続けることで日本の漁業を支える」ことを基本としているとお聞きをしました。

私は、礼文島の漁業を守る取り組みとして大いに注目しておりますし、今後、支援をしていきたいと考えているところでもあります。また、「水産加工」については、礼文島での地元加工を進め、例えば、ふるさと納税にも積極的に活用するなど、島外からの外貨をもっと稼ぐことを進めなければならないと思います。そのために必要な支援を、町としても進めなければならないと考えております。

今年の仕事始めの訓示でも、職員には、子育て支援や暮らしやすいまちづくりももちろん必要ですが、これからは、海から獲れた水揚げを 32 億 5 千万円のままではなく、これに手を加えることによって、40 億円にも 50 億円にも付加価値を高める努力をすることが大事だと申し上げました。

観光についても、同じで、体験観光が求められています。しかし、周りを海に囲まれた礼文島ではありますが、海で遊ぶ場、水に親しむ場がないと云ってもいいと思います。皆さんのお力をお借りして観光客の皆さんが、もう一泊したいと思える体験の場を作ることが必要であります。

これが、「地方創生」のめざすところであり、これからも、「しっかりした産業基盤がなければ人口減少のリスクはますます大きくなる」と云う認識をもって、具体的な取組みを進めるようにと指示したところであります。

また、よく人手不足が課題となっていますが、私は古い民家を改修して移住を希望される方に提供することや、住宅不足を補う方策として、民間のアパート等の建設に対して町が支援するという「民間集合住宅支援制度」（仮称）を新たに創設したいと考えています。

さらに、有人国境離島交付金や離島活性化交付金等々の制度を最大限に活用して、わが町に必要な新しい制度を創ることや必要があれば「公設民営」という手法も取り入れながら、礼文町が元気になれる方策を実現してまいりますので、皆様におかれましても、漁業と観光はもちろん、そこに販路拡大と水産加工等海の幸に付加価値をつけるわが町の「しっかりした産業の基盤づくり」と「経済の循環拡大」に特段のご理解とご協力をお願い申し上げます。

この度策定した、新しいまちづくり総合計画では、そのテーマを「島の絆」”地域の結びつきと支えあいによる島の更なる発展をめざして”としております。

私たちは、『離島である本町が、今後さらに人口減少や少子高齢化が見込まれる厳しい時代の中にあっても「地域の結びつき」や「人と人との支えあい」を大切にして、島全体が「家族」のように一体となり、私たち 1 人ひとりが郷土への愛着と誇りをもちながら、町の更なる発展をめざす』という強い思いが込められているのであります。中でも、「教育の充実」は極めて重要であり、自然豊かな礼文島を愛し、ウニやコンブに代表される礼文島の漁業を愛し、礼文島に住む家族を愛する … というふるさとを愛する素晴らしい「礼文学」をさらに進めて、子供たちを^{たくま}逞しく^{すこ}健やかに育ててまいります。その中心となる礼文高校の魅力化プロジェクト「れぶん留学」も、全国から生徒を公募するという重要な取組みでありますので、生徒たちにとっても、不安のないよう、懇切丁寧な対応と希望に満ちた取組みとなるよう努めてまいります。

そして、もちろん、社会福祉協議会や礼文福祉会の皆さんとも力を合わせて、福祉や介護の充実と、国保船泊診療所における医療を充実させる取り組みも更に進めて、「生まれ育った地域で安心して暮らせるまちづくり」とこれからも「礼文島に暮らす人々が幸せを感じ、将来にわたって住み続けたいと思えるまちづくり」に努めてまいります。

以上、礼文町が、^{たくま}逞しい活力と自信に満ちた町として、すべての町民の皆さんとともに感動あるまちづくりができるよう、全身全霊を傾けて邁進することを、ここに私の新年の決意とするものであり、あらためて、町議会議員各位並びに町民皆さんの尚一層のご理解とご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様にとりまして、今年一年が、明るく素晴らしい年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。 本年もよろしくお願い致します。